

山行報告

■鶴居城山(神崎郡市川町)433m

- 日 程 : 2月5日(火)
- 参加者 : L上田 SL垣内 阿部 泉 内海 小田(敏) 香川 木村 田中(重) 田中(美) 田中(由) 苦瓜 待場 松井 三木(悦) 村上
- 行動記録 : 鶴居駅9:20 発~登山口(9:44 着)9:55 発~285.4ピーク(10:17 着)10:23 発~新道分岐(10:39)~鶴居城山(10:46 着)11:57 発~林道終点(12:32)~鶴居駅(12:05 着)

◆春が来たような城山で遊ぶ

阿部

昨年末、入会后3回目の山行です。

近場という事もあり、集合時間もゆっくりで、JR 姫路駅8時20分発に乗車。鶴居駅9時04分到着。JRは14名、現地集合2名で参加者は16名。席も空いており、集まって座り、わいわいがやがや話していたら、あっという間に到着。

今迄、乗り物を下車した所から、その日登る山が見えた事が無かったのですが、今回は、駅の西側にはっきりと全貌が見え、しかも頂上に大きな木が見えます。が、2本か3本かはっきりと分からず、登ってからの楽しみが増えました。

麓の墓所近くで体操をして10時前に、上田リーダーの「今日は、見えているあそこまで登りますので、皆さんゆっくり登りましょう」の挨拶で登山開始です。

少し歩いて防獣ゲートに着きましたが、何とまあ・・・この辺りにはどんな獣がいるのかと思われるほど、高く鉄網も太く兎に角頑丈に作られていました。

登山道は、歩き易く100mおきに綺麗でとても見やすい目印の立て看板があり1kmが丁度ゴールになっていました。



285.4mのピークに10時17分到着。5合目ここで小休止。天気も良く市川町も綺麗に見えていました。下山時の分岐を確認し、8合目か9合目辺りからは石垣の名残もありかなりの急登になっていました。後100mもと思って歩いたらあっという間に頂上へ着きました。11時前に到着です。

上田リーダーの「少し早いですが昼食にしてください。今日はゆっくり過ごしましょう」と、優しい言葉を頂き、のんびりと食事をしました。おにぎり2個と味噌汁で身体を温めました。

頂上は比較的、平になっており、木の1本にブランコも設置されていて、久しぶりにブランコに乗って記念撮影をしました。木のテーブルと椅子もあり本当に整備されていました。



とにかく晴れてましたので、360度、千ヶ峰、笠形山、来月山行予定の七種山や七種槍も見え、のんびり気持ちの良い時間を過ごすことが出来ました。

12時頃から下山し始めました。途中、分岐を見落とししましたが、直ぐに折り返して、30分程で降りて来ました。道はくねくねしていて、かなりの落ち葉が積もってましたので、足元に気を付けながら下山しました。

鶴居駅までのんびり歩いて行きました。途

中、小学校の子供から「何してるの?」と聞かれたので、「おばちゃん達は、大人の遠足よ。あの山の上まで登って来たよ」と大きな声で返事をしました。駅に着いたら丁度良い時間の1時過ぎの電車があったので、乗る事にしましたが、ここで、ハプニング発生。単線のホームの乗車場所が、1番ホームか2番ホームか?分からず階段が上がったり降りたり、、、単線は乗降は同じホーム。日頃、電車に乗る事が無いので、1つ賢くなりました。

そうそう、頂上の木の筈は、何と何と、5本もありました。上田リーダーはじめ、同行の方々にもお世話になりました。楽しかったです。

■御津アルプスを縦走して相生の牡蠣祭りへ

- 日程 : 2月10日(日)
- 参加者 : La 砂川(延) SLa 荘所 大谷 尾越 河崎 木畑 島本 砂川(美) 三木(悦)
Lb 和田 SLb 森本 西山(順) 西山(由) 待場 松下 矢根 吉村
- 行動記録 : 室津漁港駐車場(9:20 着)10:05 発~室津街道入口(10:10 着)~嫦娥山分岐(11:05 着)~鳩が峰(11:20 着)11:25 発~雄鷹台山(12:05 着)12:15 発~室津山大師堂分岐(13:00 着)13:05 発~野瀬(13:35 着)~R 2 5 0 (13:45 着)~相生水産市場(14:10 着)

◆内海の霧と冬枯れた山峡の碧

河崎

真冬の瀬戸内海は、外海よりも水温が低いという。そのせいか室津の沖合には薄っすらと海霧が漂っているのがうかがえる。

登山口は、かつて宿場町として栄華を極めた室津漁村のすぐそばにあった。

国道沿いに「室津街道」と記された色あせた看板がひっそりと佇んでいるが、それが入り口である。荒れた竹林の勾配を総勢十七名もの登山客が踏みしめる。迷いそうな倒木の隘路。廃道と見まがうばかりの頹廃。冒頭の行路は、ふだんからあまり多くの人が入ることのない様相を呈していた。しかし、西鶴や谷崎潤一郎など文人墨客が歩きたいにしえの道を、いまこうして皆と歩いていると感慨深い。歴史ある里山の静かな風景はこうしたところに魅力があるのかもしれない。

御津の山容は極めて緩慢で、何よりも静謐である。嫦娥山分岐にいたると、道はやや幅広くなり多くの人々によって踏み込まれた歩きやすいルートにかわる。ウバメガシなどの常緑広葉樹が散見される。途中の山のなかでいただいた八朔の実りでのどを潤わせパーティの足枷にならぬよう前者のあとを追う。里山の低山だからと侮っていると意外に息が切れる箇所も多い。

小一時間ほどで稜線に出た。風が冷たい。灰色の雲がどんより重く垂れこめている。鳩が峰の鞍部に差し掛かり、そこでの小休止ののち、登り返して雄鷹台山へと先を急ぐ。ピーク手前の展望岩からは、小さな湾のなかに幾つもの牡蠣筏が秩序よく並び、そしてその向こう側に黒々とした家島群島が渺として浮かんでいるのがみえた。晴れてくれたら眺望もいいに違いない。けれど太陽は厚い雲の向こう側だ。

ピークでも小休止をした。時計を見ると正午を過ぎていた。目を閉じれば下山後の牡蠣と生ビールが脛の裏に漂っている。空腹であった。あとは野瀬へと下るのみ。霞んでみえた小豆島がやがて鬱蒼とした茂みに隠れはじめると、落葉した木立の九十九坂がゆるやかに相生湾に延びてゆく。空がやや明るみを帯びはじめてきた。やさしい



木漏れ日がときおり頬に降り注ぐ。一行の足取りも悪くない。疲労を滲ませるものは誰もいない。もう、あと一息。

野瀬の集落にくだり、湾岸の長いみちのりを辿りながら、ふと、サルベージ船の向こう側にきらきらと揺らめく内海の波間と、対峙する山峡の冬枯れた碧々しい表情とを眺めてみた。そして、穏やかな潮騒の音と、自然が織り成すその彩りに、ホッと心が和むのを感じた。終着点はすぐそこであった。

本山行にごいっしょくださった皆様。そして終始お世話頂いた砂川会長、このたびはありがとうございました。

■六甲全山縦走トレーニング 西コース・I

- 日 程 : 2月17日(日)
- 参加者 : L森本 SL赤木 高島 土井
- 行動記録 : 須磨浦公園駅 8:00 発～高倉団地(8:55 着)9:00 発～妙法寺(10:25 着)10:30 発～高取山(11:05 着)11:25 発～神鉄鴨越駅(12:40 着)～菊水山(13:45 着)13:50 発～鍋蓋山(14:50 着)15:00 発～大竜寺(15:25 着)～市ヶ原(15:40 着)15:45 発～新神戸駅(16:30 着)

◆六甲西半縦トレに参加して

高島

今年は初めて六甲全山縦走・西コースを申し込んだので、今回のトレーニングに勇気を出して同行させて頂きました。標高250m～480mの9つのピークに登りました。

須磨浦公園駅8時出発。階段が続く道には、イヌビワが沢山実り、紅梅はほぼ満開。この花が咲くとやはり春を感じます。本日最初のピークは鉢伏山260m。すぐに2つ目のピーク旗振山253m。山頂にはコガネモチの綺麗な赤い実が。「小金持ち」で縁起物だそうです。ウバメガシの林を歩き、3つ目のピーク鉄拐山は山頂まで行かず通り過ぎて、おらが茶屋の方にも行かず高倉団地へ向かいました。団地の公民館に9時到着し一息です。ペース速い～。

目指す方向には、梅尾山、横尾山その後方には台形の高取山が見えます。高倉団地を過ぎると、今度は梅尾山への急な魔の階段の手すりに助けてもらいながら6分で一気に登りました。約10分ほどの上りで汗が吹き出し、汗をふきふき須磨アルプスの標識に出会いました。4つ目のピーク梅尾山274m。ピークに来るたびに来し方を振り返り、あれだけ歩いてきた～と自分達をほめながら、また歩き出します。

本日5つ目のピーク横尾山には梅尾山から10分足らずで着きました。さあ、いよいよ馬の背が近づいて来ました。今回ここを歩くのは3回目です。今まで恐々歩いていたので長い距離だと感じていましたが、今日はあつという間に馬の背の撮影場所にたどり着き慣れとは凄いものです。6つ目のピーク東山からは、横尾、名谷辺りの西神の街並み、色とりどりの屋根の色が綺麗かった。

妙法寺に10時25分到着し次は高取山を目指します。登山口でサブリーダーからのアドバイスがありました。頂上に行くまでに3か所の鉄柵があり最後の鉄柵を超えたらすぐ頂上やから。という事で、目標物を数えながら進むと長いきつい登りも頑張れました。お稲荷さんのある高取山西峰に三角点312.8m少し進むと東峰の山頂。こちらが本当の山頂で328.8m

です。7つ目のピーク高取山山頂からの絶景が本日一番の感動でした。

この山頂に11時20分で、残すはあと2つのピークとなりました。

鴨越駅辺りでエスケープしたくなる気分でしたが、ここで辞めたら今までのがいなしや。あと2つ登ると終わりやから、と励まされ、やっと菊水山登山口に13時15分到着し一息休憩でこの山に登るアドバイスを頂きました。それは、8か所の黒い階段を登りきるとすぐ頂上。6か所目の階段には展望所がある。という事で、有り難い手すり付きの急な階段の数を数えながら、8つ目のピーク菊水山458.8mに25分で登りました。



本日最後の9つ目のピーク鍋蓋山を目指して進みます。この山は菊水山とは対照的でジグザグ登山道です。この山に登るアドバイスは、菊水山から見た時の鍋蓋山の鉄塔の位置を頭におき、その鉄塔の下をくぐる時が7割登っていると思え。と言うことで、ただやみくもに歩くのではなく、次はどんな目印を目当てにするのか思い描きながら進むと、25kmが歩けることがわかりました。鍋蓋山486m14時50分到着。本日一番高い山でした。

一気に高度を上げる菊水山とジグザグジグザグに進む鍋蓋山。対照的な登山道でしたがどちらの山が好きか質問されましたが、どちらもしんどい登りだったので、登ってみればどちらの道も好きでした。その山の特徴がわかった上での登山は、自分の気持ちがいよいよ事について行けるので、数々のアドバイスに助けられ、長い距離を歩けたことに感謝致します。

リーダーさん、同行の皆様、ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

■信貴山(437m) 生駒山系南部の歴史のある山を歩く

- 日 程 : 2月17日(日)
- 参加者 : La 瀧原 SLa 澤田(律) 小田(敏) 香川 橋本(万) 舛賀 安田 矢根 山本(清)
Lb 垣内 SLb 島谷 乙坂 兼澤 河合 木村 田中(重) 田羅間 徳本 森下
- 行動記録 : 信貴山口駅(9:41 着)9:51 発~登山口 10:11~高安山山頂 11:30~高安城倉庫跡(11:45 着)12:20 発~松永屋敷跡 12:45~信貴山山頂(12:55 着)13:35 発~朝護孫子寺(13:50 着)14:30 発~ケーブル跡地入り口(14:50 着)14:55 発~信貴山下駅(15:20 着)15:31 発

◆信貴山山行

田羅間

JR、近鉄と乗り継ぎ、信貴山口駅から少し歩いて法蔵寺でストレッチして出発。寺までの市街地も急な坂であったが、高安山へ向かう道も急登、休憩を取りつつひたすら登る。時に視界が開け、遠くあべのハルカスまで眺めることができた。

高安城址では近年倉庫跡が発見されかなり大きな礎石があり、こんな山の上に田税としての粃や塩が貯蔵されていたと言う。雪がちらつく中、昼食をとり、兼澤さんよりこれから向かう朝護孫子寺についてレクチャーを受ける。いろいろ調べてきて説明してください。その後、松永屋敷跡を経て信貴山頂へ。そこには無数の赤い鳥居。湯を沸かして楽しいコーヒータイム。暖かい飲み物にホッとする。



下って行くと多くの塔頭、宿坊どれ程大きな寺かと驚く。本堂で戒壇めぐりをする。階段を下がったら灯り一つない暗闇。右手にある壁の感触だけで歩む。足元に何があるのか、何もないのかも分からず、全く見えず、仲間の声が聞こえるだけの暗闇を進む。すごく長い時間の様でもあったしすぐだった様にも思えた。

その後、護摩だきを見物し、大寅の像の前で集合写真を撮り、開運橋ではバンジージャンプを見物し、一路信貴山下駅まで歩く。これまた、急な長い下り道だった。

低山ながら急登あり、真っ暗な戒壇めぐり、護摩だきそしてたまたまのバンジージャンプ本番を見ていろいろと経験できた一日であった。お疲れ様でした。

■氷ノ山 神大ヒュッテに泊まる

<アルプ山行>

- 日 程 : 2月23日(土)~24日(日)
- 参加者 : L 竹内 SL 尾越 河崎 谷口 福田 三木(悦)

●行動記録：

(23日)国際スキー場駐車場10:15発～東尾根登山口(10:53着)11:03発～東尾根避難小屋(11:30着)12:02発～一の谷休憩所(12:30着)12:32発～神大ヒュッテ(14:33着)

(24日)神大ヒュッテ8:04発～氷ノ山山頂(8:43着)8:50発～こしき岩(9:12着)～仙谷分岐(9:20着)～氷ノ山越避難小屋(9:56着)10:41発～木地屋跡(11:38着)～地藏堂(11:50着)11:53発～布滝(12:19着)～福定親水公園(13:10着)13:15発～国際スキー場駐車場(13:50着)

◆念願かなった雪の氷ノ山

谷口

去年の会報で雪の氷ノ山の山行報告を見て以来、行ってみたいと思ってました。1月の会報で募集を見つけましたが、「アルプ山行」という但し書。アルプのメンバーでないので迷いました。

砂川会長や竹内リーダーに相談し、参加可能になった時は小躍り状態でした。しかし、ミーティングで13～14kgのザックを担ぐとわかり歩荷トレ開始。前日には不安になりましたが、当日はやっぱりワクワク。

8時に宝殿駅を出発し、10時前に氷ノ山国際スキー場駐車場に到着。大きなザックを背負ってリフトに乗るのも初でちょっと緊張しました。今回はとにかくメンバーに「ついていく」、そして無事下山出来たら良しと自分で決めてました。メンバーには申し訳ありませんでしたが、地形図や時計を見る余裕はありませんでした。

雪山は遠くから見ると、どの斜面も同じように白く美しく見えますが、実際歩いてみると、凍っている雪、白砂糖か片栗粉のような感触の雪、真綿のようにふわりとした雪、

どンドン状態が変化しその度に足から伝わってくる雪の変化を楽しみました。また上りでは足先で雪面を蹴るように、下りでは踵から、急斜面は身体を山肌に寄せながらと、教えてもらいながらアイゼンの爪を感じながらの一步一步。たまに歩を緩めて空の青さに、周囲の山の稜線に感動しながら14時半に千本杉ヒュッテに到着。

ザックが中に運び込まれると、「窓を開けて光を入れ、部屋の雪を掻き出し、ストーブに火をおこす。」指示が無くとも自然に6人が外、内に分かれ宿泊の準備が始まりました。

夕食は尾越シェフの素晴らしいメニュー {ペンネとブロッコリーのアンチョビ炒め、ミネストローネ風スープ、炭火焼きピザ} もちろん朝食もタンパク質豊富で美味。夜半は風が吹き荒れてましたが、朝には止み、雲海の広がる素晴らしい景色が出迎えてくれました。人工音が無くてしんと静まり返ってますが、何かしら木々の息吹のようなものが感じられました。

翌朝は、わかんをつけて8時に出発。スノーシューとは違う感覚を初体験。天気、メンバーに恵まれとにかく楽しい。氷ノ山頂上からは真っ白な大山が美しい！こしき岩を過ぎた辺りで



「わかん」からアイゼンにと指示「雪庇があるから、あまり端にいかないように」の言葉に緊張しながら交換しました。氷ノ山越避難小屋前でぜんざいを食べエネルギー補給は完璧。その後はひたすら駐車場まで雪を堪能。気温が高かったせいか、福定親水公園辺りから片足が膝まで入ることも度々あり参りましたが、アルプ初参加で無事下山出来嬉しかったです。

想定外の事が何度かありましたが、メンバーの機転を利かせた素早い行動に感動しました。竹内リーダーをはじめ、メンバーの皆さま本当にありがとうございました。

■八ヶ岳(北横岳・縞枯山) スノーシュー・アイゼントレッキング

● 日程：2月24日(日)～26日(火)

● 参加者：L 砂川(延) SL 佐々木 大谷 高島 藤原(千) 松下 安田 矢根

● 行動記録：

(24日)JR 宝殿駅(8:25 着)8:28 発～三木小野 IC8:56 発～大津 SA(10:05 着)10:15 発～養老 SA(11:15 着・昼食)11:48 発～駒ヶ岳 SA(13:30 着)13:40 発～諏訪湖 SA(13:58 着)14:40 発～諏訪 IC14:45 発～車山肩(15:28 着)15:35 発～ホテル親湯(16:25 着)

(25日)ホテル親湯 8:38 発～ロープウェイ乗り場(8:53 着)9:30 発～頂上駅(9:37 着・アイゼン)9:55 発～北横岳ヒュッテ(10:50 着)11:00 発～北横岳南峰(11:12 着)11:17 発～北横岳北峰(11:20 着)11:37 発～北横岳ヒュッテ(11:55 着・昼食)12:20 発～縞枯山荘(13:00 着)～縞枯山登山口(13:05 着・アイゼン)13:15 発～縞枯山引返し(13:22 着)～縞枯山登山口 13:32 発～頂上駅(14:12 着)15:00 発～山麓駅(15:08 着)15:17 発～車山高原(16:07 着)17:07 発～ホテル親湯(18:20 着)

(26日)ホテル親湯 9:00 発～車山高原ドライブ(9:50 着)～諏訪大社(11:20 着)11:35 発～岡谷 IC11:50 発～中津川 IC(13:06 着)14:18 発～養老 SA(15:20 着)15:35 発～宝塚北 SA(17:15 着)17:30 発～三木小野 IC17:56 発～JR 宝殿駅(18:50 着)

◆スノーシュー山行に参加して

安田

スノーシューを体験したことが無かったので、とても楽しみにしていたのですが、まさかの雪の状態でした。でも、とても面白い体験の2泊3日でした。

今年は暖冬で積雪が少ないのは、この兵庫県でも感じてはいたのですが、長野県はさすがに大丈夫だろうと甘い考えだったと現地に着いて思いました。

初日、車は順調に高速道路を進み、名古屋を過ぎて中央道を北上します。両サイドの山々には、全く雪がありません。中央アルプス、南アルプスの高い山々が現れますが、ほんの山頂にだけ雪が被っているだけです。あれ～？、もしかして諏訪湖周辺もこんな状態なのかな？と不安がよぎります。まさかと思いきや…！ここは長野県、そしてまだ2月です。諏訪湖を横目にビーナスラインを走る



のですが、雪がありません。去年、宿泊したという車山高原に着きまして、車から降りるのですが、去年も参加した方達は呆れ顔です。

しかし、なんと美しい風景でしょうか。360°の大パノラマです。お天気が良いので、素晴らしかったです。富士山も綺麗に見えました。明日登る八ヶ岳も目の前です。この景色を見る事が出来たことだけでも大満足！

そこから蓼科高原にある新湯温泉へ向かいます。途中白樺湖を横切るのですが、この湖は凍っているようでした。今夜の宿は歴史のある宿ということで、とても楽しみにしていました。ネットで見ても、とてもモダンな感じがしていたのですが、実際に見ると大違いという事もあるので、どうかな〜？と思っていたのですが、綺麗でした。最近改装したとのことでしたが、感じが良かったです。食事もある新鮮な野菜をふんだんに使った料理が多く美味しかったです。

さて翌日、スノーシューは雪の状態を見て決めるとのことです。北八ヶ岳ロープウェイに向かいました。やはり今日はアイゼンで行こうと会長が判断されて、山頂に向かいました。さすがに山頂はガスがあって、スッキリしない視界でした。スキー客や私達と同じくトレッキングのグループが沢山います。今日は平日なのにこんなにも来るってことは人気がある所なのだろうと思いました。

私は今回、初のアイゼン使用でした。買ったのは3年前位でしょうか。雪山へ行く機会が全く無かったので、やっと使う事が出来たのでした。会長の後ろを付いて行きながら、歩き方を指導してもらいました。



ロープウェイ山頂の坪庭からザクザクと雪道を登って、北横岳に着くとガスが晴れてなんと綺麗な大パノラマです。360°ぐるっと眺望が開いています。目の前には蓼科山、遠くには南アルプス、中央アルプス、御嶽山、乗鞍岳、北アルプス、後立山連峰などなど全部見る事ができて凄かったです。この山頂はとても風が強く長時間、居られないと言われていたのですが、今回は風は弱かったようです。割と長時間景色を眺めることができました。やはり、何かがダメなら何か良い事があるようです。ラッキーでした。昼食後、下山時にアイゼンを外すようにと言われて、降りるのですが、滑る滑る！しまいには初めから滑り台から滑る感じで降りた所もあり、危険ながら面白かったです。縞枯山に登らなかったのも、時間的余裕ができたので、ロープウェイを降り、昨日の車山高原へ夕日を見に行きました。天気がとても良かったので、やはり夕日も綺麗でした。御嶽山から沈む夕日が東側の八ヶ岳に茜色が映えて、とても綺麗でした。雪が多ければ、また違う景色なんだろうが、これはこれで良かったです。

帰る日も、また、この車山高原を通して景色を楽しみ、諏訪大社にも立ち寄りしました。私はテレビで諏訪大社の御柱祭を見たことがあったので、あの大迫力の祭りはここであるのかと思いました。

帰りは美味しい物を買ったり食べたりと贅沢な山旅をさせて頂きました。参加された皆様ありがとうございました。会長にはいつも車の運転お疲れ様でした。

帰りは美味しい物を買ったり食べたりと贅沢な山旅をさせて頂きました。参加された皆様ありがとうございました。会長にはいつも車の運転お疲れ様でした。

■六甲全山縦走トレーニング 西コース・II

- 日 程 : 3月2日(土)
- 参加者 : L須増 SL尾内 上田 乙坂 香川 笹木 島谷 橋本(健) 松下 三木(悦)
- 行動記録 : 須磨浦公園駅8:05発～高倉団地(9:20着)9:32発～妙法寺(11:00着)11:23発～高取山(12:15着)12:30発～市民トイレ(13:12着)13:25発～神鉄鶴越駅 13:50発～菊水山下(14:13着)14:20発～菊水山(14:53着)15:06発～鍋蓋山(16:11着)16:20発～大竜寺(16:52着)～市ヶ原(17:08着)17:16発～見晴らし展望台(17:45着・ストレッチ)17:51発～新神戸駅(18:05着)

◆六甲西半縦トレに参加して

香川

今回の西半縦トレは去年に続き2回目の参加でした。明石での乗り換えが不安なために一本早い電車にJR播磨勝原駅から乗車。赤い太陽が昇ってきています。

いつもの山行とは違う緊張感があります。

まずは、集合場所の須磨浦公園駅に到着。2人欠席で男性3人女性7人計10人のグループで出発しました。旗振山展望台で小休憩、鮮やかな紅梅、海はかなり霞んで見えます。

高倉団地でトイレ休憩、梅尾山の400段の長い階段をクリア、横尾山～スリル満点の馬の背、うまいタイミングで集合写真に収まり、妙法寺に11時03分到着。20分の休憩ということで、早い昼食となりました。暫くすると私たちと同じくらいのグループが来られ、後で兵庫労山の「北摂山の会」のグループだと知りました。

またまた登って高取山で15分のトイレ休憩、甘い物でエネルギーを補給。後半の膝痛に備えストックを用意しました。去年は喘ぎながらリーダーの後を必死で付いて行った丸山市街地のアスファルトのくねくね坂道。鶴越駅を通過、いよいよアップダウンを繰り返した足には過酷な急登の菊水山です。山頂はまだかまだかと、ハアハア、フウフウ登っていった。それでも下から40分で到着し、記念撮影含め15分休憩、皆な元気だ。

鍋蓋山も残りのパワー? 惰性? で乗り切り本番の西ゴールの大竜寺を通過したのが、16時52分でした。(本番では16時30分がタイムリミット) ちょっと残念な時間通過でしたが、全員無事に完歩できて達成感いっぱい新神戸駅に着きました。

須磨浦公園駅から新神戸駅まで歩行時間=約8時間、歩行距離=約24.5kmを歩き通せて夏山山行の自信にもなり嬉しく思います。

体が回復してきたら、来年は、早朝の集合時間をクリアして本番を歩いてみたい気になってきました。リーダー、メンバーの皆様ありがとうございました。



台でリタイアする感じになっていた。「土井さん一人で行ってきて」「えーっ、マジで？道わかんない。ほんまに？」と言ってる間に二人とちょっと離れた。もう一人で行くしかない。とりあえず掬星台まで登ろう。

掬星台でちょっと休憩しようと思っていたが、到着して屋根のある所に行くとスタッフの人がたくさんいてアンカーの人もスタンバイOKな状態だったので、トイレだけ済ませて出発することにした。いや、でも道がわからない。ちょうど休憩が終わって出発するグループの方たちがいたので後ろについていくことにした。こんな状態でゴールまで行けるのかすごく不安になった。そして、雨と風もだんだんひどくなってきた。



記念碑台に16時30分に着き、ガーデンテラスへと向かった。その間、前を歩いている人が休憩したりしたが、また違う人を見つけて後について行った。一軒茶屋への道も雨、風が激しく3、4メートル先に行く人も霞んでぼんやりしていた。「もう無理。一軒茶屋でリタイアしようか」と思った。途中、いつも行くショートカットの道に気づいてそっちへ行こうかと思ったが他に行く人がいないようだったのでやめた。今回は、必ず誰かの後についていく作戦だ。そうやって進んでいき、この道の先に一軒茶屋だと思っていたらいきなり最高峰まで行ってしまった。「あれれ？」と思いながら一軒茶屋のチェックポイントまで行った。いざ、一軒茶屋に到着するところでリタイアしても一人じゃ帰れないことに気づいた。他の方たちは、ヘッドランプを出して行く準備をしている。私も皆さんについてゴールまで行こう。そう決心した。

そこから先は雨と暗闇とぬかるみとの戦いだった。晴れていたら日没まではまだ少し時間があるはずだが、雨のためもうすでに暗く一軒茶屋を出る時にヘッドランプを点けた。暗い中を一步ずつ確認しながら歩くが、水たまりやぬかるんだ泥がやっかいだった。そうしているうちに、体が冷えてきたのか自分の体のバランスが保てなくなってきたのがわかった。片足を踏み出すとフラフラとした。そんな状態での大谷乗越はスリル満点だった。怖かったです。その後もぬかるみに足を取られて何回も滑った。

それでも何とか塩尾寺までたどり着いた。真っ暗で建物も見えなかったけれど、もう真っ直ぐ歩けてない気がしたけどあと20分程でゴールだと思い頑張って歩いた。だんだん灯りが見えてきて係の方が「おつかれさま。」と迎えて下さる中ゴールした。カードを渡して時間を書いてもらった。20時55分だった。ギリギリだけど21時前にゴールできた。この後ぜんざいを頂き冷えた体も温まり、一人での怖さからも解放されてすごくほっとした。

最後に、六甲全山縦走をご一緒した森本さん、橋本さんありがとうございました。

■半縦西コース（須磨浦公園～大竜寺前ゴール～新神戸）

●参加者：L 須増 SL 兼澤 高島

●行動記録：須磨浦公園 7:30 発～旗振山(8:00 着)～高倉団地(8:30 着)8:40 発～梶尾山(9:00 着)～横尾山(9:17 着)～須磨アルプス(9:30 着)～東山(9:40 着)9:45 発～妙法寺(10:15 着)10:30 発～高取山登山口(10:30 着)～高取神社(10:55 着)～高取山東広場(11:10 着)11:25 発～神鉄鴨越駅(12:30 着)～菊水山下(12:48 着)～菊水山登山口(13:15 着)13:25 発～菊水山(13:57 着)14:15 発～鍋蓋山(15:15 着)15:30 発～大竜寺(15:56 着)～新神戸(17:15 着)

◆「六甲全山縦走・西六甲縦走コース」に参加して

兼澤

天気予報では「9時30分頃から雨となる。低気圧の前線の影響で、午後から風雨が強くなり所によっては雷に注意」とあった。その為か、受付を待つ参加者が少ないように思えた。

7時30分受付を終え、薄日の差す穏やかな須磨海岸を見下ろしながら出発した・・・せめて、須磨アルプスの馬の背を越えるまでは雨が降らないことを願いつつ・・・

参加者の3人はこのコースの経験者でペース配分などが計算できたのは幸이었다。また、景色を楽しみ、雑談を交わすことなどに心掛け、歩くことに集中しすぎないようにした。

鉄拐山を過ぎ、「おらが茶屋」あたりから、今にも雨が落ちてきそうな空模様が変わってきた。湿気を含んだ、生暖かい、重たい風も吹き始めた。

梶尾山の長い直登の階段、須磨アルプスの馬の背も越えた。雨は持ち堪えてくれた、ラッキーだった。

妙法寺あたりから、ポツポツと降り始めた。高取山に取り付いたときに、カップの上衣を着た。高取山でトイレを済ませ、小雨が降り続く中、丸山市街地、神鉄鴨越駅を通過・・・

山麓バイパスの高架下付近に祀られている「お不動さん」での、私の摩訶不思議な体験を披

露したところ、期せずして、3人共に、祠の前で合掌し「なまく。さまんだばさらなん。せんだまかろしゃな。そわたや。うんたらた。かんまん」。

菊水山に取り付いた。黒色の階段を何ヶ所登ると頂上だったかな？5ヶ所？8ヶ所？などと言ひ合ひ、気を紛らわしながら、ひたすら登る。途中、見晴らしの良い所で立ち止まり、ゴルフ場や神戸のビル街を眺めながら、息を整える。間もなく、頂上に到着。

この頃から風の向きが変わり、また、冷たく強い風となった。雨も本降りになってきた。カップのパンツを着て、完全な「雨スタイル」となった。この後、各人が汗をかかないよう、身体が冷えないよう、レイヤリングに細かく配慮しながらの行動となった。また、雨の中の行動は体力を消耗するので、レーションと水をこまめにかつ多く摂取するように心掛けた。

菊水山の下りは“イノシシと同じ位のスピード”で下山した。その影響か？鍋蓋山を登り始めた時、息が苦しくなった（反省です）。5分ほど立ち休憩で、元気を取り戻し、出発。



その後も、風は強く、冷たい状態が続いたが、雨はどしゃぶりにはならなかった。

16時前に、3人揃って、元気に「ゴール！！」（大竜寺前）

JR新神戸駅までの全行程25kmの長丁場だったが、楽しい山行だった。これも良き仲間のおかげと感謝しています。

■土曜トレ特別講習

- 日 程：2月9日(土) 9:00～12:00
- 場 所：笠松山の麓・古法華寺の奥広場
- 参加者：尾内 島谷 砂川(延) 瀧原 竹内 田羅間 西川 藤原(千) 安田 和田

◆講習報告

砂川(延)

1月の土曜トレから始まった特別講習でシュリングセットを使っての急傾斜での安全な上り方、下り方を行ってきました。要点をまとめて報告しておきます。

1. 三点確保での岩登りトレ
2. 急傾斜でロープでの支点の設定、このロープを使っての安全な登り、下り
3. シュリングセットでの自己確保を行って安全な登り、下り

その他、10mロープを使って急傾斜での登、下降での使い方等行ってきました。

これらの事は現場で使えなければ意味がありません。そのためには、日頃からロープの結び方、張り方、セッティングの仕方がスムーズに行えるようトレーニングが必要です。

特にリーダーの皆さんはパーティーの安全を確保する責任がありますから、今後も、まさかのためのセルフレスキューのトレーニングを積極的行っていきましょう。

■高森ボランティア

- 日 程：2月16日(土)
- 場 所：鷹ノ巣山尾根東～桶居山への登山道
- 参加者：大谷 澤田(律) 島本 砂川(延) 荘所 待場 村上 和田

◆活動報告

砂川(延)

作業場所は鷹ノ巣の東から桶居山への登山道が別所奥で一旦、谷に降りるところまでを登山道整備の下見として、現地調査を目的に行きました。谷に降りる箇所が急な坂で、傾斜が厳しいこと、ぬかるんでいることが多い事などがあり、この箇所に後日ロープを張ることにしました。帰りは尾根に上がるまでの登山道で、草が覆いかぶさっている箇所の草刈りをしながら下山しました。

その後、21日(木)に島本さんが友人と現地に入りロープを設定したとの報告が入っています。(写真参照)

